

●不安定狭心症・急性心筋梗塞

不安定狭心症と急性心筋梗塞をあわせて、我々は急性冠症候群(ACS)と呼び、緊急の対応が必要な疾患として区別しています。冠動脈の狭窄した部位に、血栓が生じることによって急激に狭心症の症状が悪化するような状態を不安定狭心症といいます。冠動脈の狭窄が高度、あるいは完全に閉塞してしまった場合には、心筋壊死が生じます。これを心筋梗塞と呼んでいます。心筋壊死が生じているかどうかは、血液検査でトロポニンという検査値が上昇しているかどうかで判断できます。カテーテルによる速やかな血流改善が有効です。狭心症の症状が数分でおさまらない場合や、冷や汗や嘔気を伴うような強い胸痛を自覚された場合などは、すぐに病院を受診する必要があります。この際、歩いて受診せず、救急車を呼んで受診することが重要です。心筋梗塞を発症された多くの方が不整脈で命を落としています。

